

問題

「物流の2024年問題」について説明し、海運業界を中心に具合的な改善策・課題について600字以上800字以内で述べること。

物流業界の「2024年問題」とは、働き方改革法案によりドライバーの労働時間に上限が課されることで生じる問題の総称のことです。

働き方改革関連法に伴い労働基準法が改正され、一般的に時間外労働は、原則月45時間、年間360時間と規定されました。物流業界は、この規定はが2024年3月末まで猶予事業や業務の特性上別の扱いとなり、年間960時間の上限制限が適用されます。

物流業界は業務の特性上、長時間労働が常態化しやすい業種でした。長時間労働の背景には、ドライバーの若手不足や高齢化、またEC（電子商取引）の成長による需要の増加などが挙げられます。

今後、ドライバーの時間外労働時間が年間960時間に制限されることで、一人当たりの走行距離が短くなり、長距離でモノが運べなくなると懸念されています。東京ー大阪間をトラックで輸送する場合、これまで一人のドライバーが一日で輸送が可能でしたが、この制限では2人のドライバーが交代して輸送しなければならず物流業界のコスト上昇による売上減、ひいてはトラックドライバーの収入の減少なども考えられるとされています。

この「2024年問題」対策として鉄道輸送や内航海運へのモーダルシフトが挙げられています。

国内の長距離輸送をトラックではなく途中をフェリー、RORO船を利用することでドライバーの負担を低減することができます。例えばRORO船の場合、トラックもしくは荷物を搭載したシャーシごと船に運び込み移動することで、ドライバーの運転時間の短縮を図ることが可能です。ドライバーの長距離輸送に係る拘束時間は無くなり、さらに日帰りの可能となり労働環境の大幅な改善が見込まれます。

一方、このようなモーダルシフトに関する案はかねてから提案されていたものの、設備の新設・整備が遅れているなど課題も多く、実現をするためには関連する企業、港湾関連の協力が必要である。

採点基準：キーワード（赤字）×5点、その他具体的な用語が出ていれば各5点とする。2024年問題の文章が論理的に述べられている場合は10点、海運関連に関する説明が論理的に述べられている場合は20点とする。なお記述が間違えていても減点とはしない。具体的な例も挙げて述べていた場合は加点をする。最終評価は100点満点を10段階に換算して提出する。